

# 建学の理念

## ——実学主義の伝統——



創設者 榎本武揚子爵

東京農業大学は明治24年3月6日、榎本武揚<sup>えのもとたけあき</sup>によって、徳川育英会を母体にした私立育英黌農業科として設置されました。

育英黌の後身「東京農学校」第2回卒業式の式辞として榎本武揚は、次のように述べています。

「我農民特有の能力に加ふるに、学術と実験とを以て、農業に属する各般の改良を図らば、其の国家の富源を増進すべきこと、決して擬を容るべからず。(中略)諸子其れ本校に於て得たる所の技能を實際に施し、以て父兄の業を拡張し、更に進んで国家富強の基を開かれんこと拙者が諸子に望む所なり。」

この言葉は、農業の発展が近代国家の建設にとって極めて重要であり、それを担う農業後継者である卒業生に送ったものです。当時は官立の農学校の創草期でしたが、官吏養成を主目的としない、わが国はじめての私立の農学校として設立した本学の建学の理想がうかがえます。



初代学長 横井時敬博士

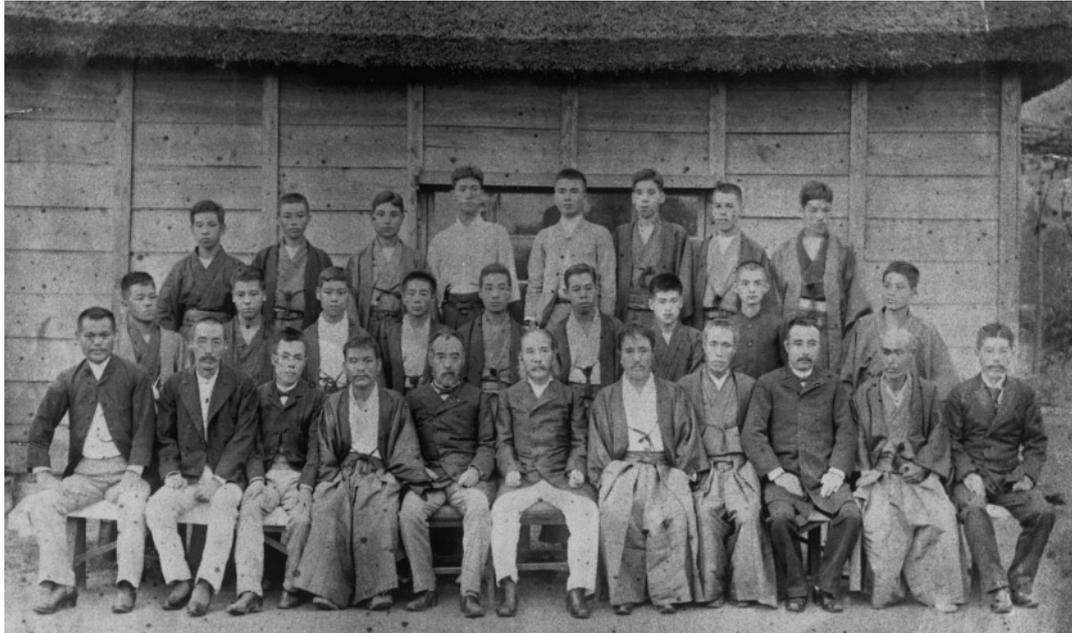
本学の建学の理念を築いたのは、明治30年から昭和2年までの30年間、心血を注いで本学を育成した、わが国近代農業の鼻祖といわれる初代学長横井時敬<sup>よこいときよし</sup>です。

横井時敬は農学の教育研究をとおして農業、農業関連産業及び農村文化・農村社会の発展に寄与する人材の育成を目指し、その教育理念を「実学主義」におきました。横井時敬の「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」は、今もって本学における研究教育の精神的支柱になっており、観念論を排し実際から学ぶ姿勢をこの言葉に込めています。

そして「人物を畑に還す」と。さらに「農学栄えて農業亡ぶ」という警世の句を残し、教育研究は学問のための学問を排し産業界から遊離しない実学研究でなければならないとしました。

また人格の陶冶を、質実剛健<sup>しつじつごうけん</sup>、独立不羈<sup>どくりつふき</sup>、自彊不息<sup>じきょうやまず</sup>の言葉で表現し、「気骨と主体性」をもった紳士の育成を目指しました。

# 大学の沿革



第一回生卒業記念写真（明治26年）

- 1891(明治24)年 徳川育英会による育英黌農業科として、東京市麴町(現千代田区)飯田河岸に設立。管理長は榎本武揚、黌長は永持明德ながもちめいとく
- 1892(明治25)年 東京市小石川区(現文京区)大塚窪町に移転。育英黌分黌農業科となる。
- 1893(明治26)年 私立東京農学校と改称
- 1897(明治30)年 大日本農会附属私立東京農学校と改称。教頭に横井時敬就任
- 1898(明治31)年 東京府豊多摩郡渋谷村常盤松(現渋谷区渋谷4丁目)に移転
- 1901(明治34)年 大日本農会附属私立東京高等農学校と改称
- 1903(明治36)年 専門学校令による許可を受ける。
- 1905(明治38)年 農商務省から耕地整理講習部設置委託の命令を受ける。
- 1907(明治40)年 校長に横井時敬就任
- 1911(明治44)年 私立東京農業大学と改称し、初代学長に横井時敬就任  
大学部(本科、予科)及び高等科設置
- 1913(大正2)年 大学構内に東京農業大学肥料分析講習部(後に農芸化学講習部と改称)を設置
- 1924(大正13)年 大学構内に東京高等造園学校を設立
- 1925(大正14)年 財団法人東京農業大学の認可を受ける。大学令による東京農業大学となり農学部農学科及び予科を設置  
専門学校令による東京農業大学を東京農業大学専門部と改称し、農学科及び農芸化学科を設置
- 1927(昭和2)年 第2代学長に吉川祐輝きつかわすけてる就任

- 1937(昭和12)年 専門部に農業拓殖科（後に開拓科と改称）を増設
- 1938(昭和13)年 農学部<sup>に</sup>農業経済学科を増設
- 1939(昭和14)年 第3代学長に佐藤寛次<sup>さとうかんじ</sup>就任
- 1940(昭和15)年 専門部に農業工学科（後に農業土木学科と改称）を増設
- 1941(昭和16)年 専門部に農村経済科を増設
- 1942(昭和17)年 東京高等造園学校を合併し、専門部に造園科（後に緑地土木科、さらに緑地科と改称）を増設
- 1945(昭和20)年 農学部<sup>に</sup>農芸化学科及び農業土木学科を増設  
5月戦災をこうむり校舎、諸設備の大部分を焼失。終戦とともに樺太農場（約192ha）、満州農場（7,500ha）を失う。
- 1946(昭和21)年 東京都世田谷区（現在地）の旧陸軍機甲整備学校跡に移転
- 1947(昭和22)年 千葉県茂原市に千葉農学部<sup>を</sup>開設し、専門部林業科と畜産科を増設。専門部開拓科を廃止
- 1949(昭和24)年 学校教育法による新制大学設置の認可を受け、農学部<sup>に</sup>農学科・林学科・畜産学科・農芸化学科・農業工学科・農業経済学科・緑地学科・協同組合学科（25年廃止）を設置
- 1950(昭和25)年 東京農業大学短期大学を併設。農業科・醸造科他5科を設置するが後に5科は廃止
- 1951(昭和26)年 学校法人東京農業大学の寄附行為設置が認可された。
- 1953(昭和28)年 農学部<sup>に</sup>醸造学科を増設  
大学院農学研究科修士課程農学専攻、農業経済学専攻を設置
- 1954(昭和29)年 農芸化学科を農芸化学科に改称
- 1955(昭和30)年 第4代学長に千葉三郎<sup>ちばさぶろう</sup>就任
- 1956(昭和31)年 農学部<sup>に</sup>農業拓殖学科を増設。緑地学科を造園学科に改称  
短期大学に栄養科増設
- 1957(昭和32)年 大学院農学研究科に修士課程農芸化学専攻を増設
- 1959(昭和34)年 大学院農学研究科に博士課程農芸化学専攻を増設  
第5代学長に三浦肆玖楼<sup>みうらしくろう</sup>就任
- 1961(昭和36)年 第6代学長に内藤 敬<sup>ないとう ひろし</sup>就任
- 1962(昭和37)年 農学部<sup>に</sup>栄養学科を増設  
大学院農学研究科に博士課程農学専攻及び農業経済学専攻を増設
- 1968(昭和43)年 栄養学科を栄養学専攻と管理栄養士専攻に専攻分離し、昭和40年度入学生に遡って適用した。
- 1971(昭和46)年 第7代学長に平林 忠<sup>ひらばやし ただし</sup>就任
- 1975(昭和50)年 第8代学長に鈴木隆雄<sup>すずき たかお</sup>就任
- 1985(昭和60)年 短期大学長に石丸罔雄<sup>いしまるくにお</sup>就任
- 1986(昭和61)年 大学院農学研究科に修士課程林学専攻、畜産学専攻、食品栄養学専攻を増設
- 1987(昭和62)年 第9代学長に松田藤四郎<sup>まつだとうしろう</sup>就任
- 1989(平成元)年 北海道網走市に生物産業学部（生物生産学科・食品科学科・産業経営学科）を新設

- 短期大学長に松田藤四郎就任
- 1990(平成2)年 大学院農学研究科林学専攻、畜産学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。博士後期課程生物環境調節学専攻、修士課程農業工学専攻、醸造学専攻、国際農業開発学専攻、造園学専攻を増設  
これにより、大学院農学研究科11専攻となる。
- 東京農業大学短期大学を東京農業大学短期大学部と校名変更
- 1991(平成3)年 農学部農業拓殖学科を農学部国際農業開発学科に改称  
天皇皇后両陛下ご臨席のもと創立100周年記念式典（於東京プリンスホテル）を挙
- 1992(平成4)年 短期大学部農業科を、生物生産技術学科及び環境緑地学科に改組  
短期大学部醸造科を醸造学科に、栄養科を栄養学科に改称
- 1993(平成5)年 大学院生物産業学研究科修士課程生物産業学専攻を増設
- 1995(平成7)年 大学院生物産業学研究科生物産業学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設
- 1998(平成10)年 農学部10学科を、農学部（農学科、畜産学科）、応用生物科学部（バイオサイエンス学科／新設、生物応用化学科／農芸化学科改称、醸造科学科／醸造学科改称、栄養科学科／栄養学科改称）、地域環境科学部（森林総合科学科／林学科改称、生産環境工学科／農業工学科改称、造園科学科／造園学科改称）、国際食料情報学部（国際農業開発学科、食料環境経済学科／農業経済学科改称、生物企業情報学科／新設）に改組  
神奈川県厚木市船子に厚木キャンパス（農学部）新設  
3キャンパス6学部19学科体制スタート
- 1999(平成11)年 第10代学長に進士<sup>しんじいそや</sup>五十八就任
- 2002(平成14)年 ISO14001の認証を取得  
大学院農学研究科に修士課程バイオサイエンス専攻、国際バイオビジネス学専攻を増設。醸造学専攻、食品栄養学専攻、農業工学専攻、造園学専攻、国際農業開発学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設  
大学院2研究科14専攻体制スタート
- 2004(平成16)年 大学院農学研究科バイオサイエンス専攻、国際バイオビジネス学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設
- 2005(平成17)年 国際食料情報学部生物企業情報学科を国際バイオビジネス学科に改称  
大学院農学研究科博士後期課程生物環境調節学専攻を環境共生学専攻に改称  
第11代学長に大澤<sup>おおさわかんじゆ</sup>貫寿就任
- 2006(平成18)年 農学部バイオセラピー学科、生物産業学部にあくアバイオ学科を増設
- 2010(平成22)年 生物産業学部食品科学科を食品香粧学科に改称  
大学院農学研究科に修士課程バイオセラピー学専攻を増設  
大学院生物産業学研究科博士前期課程にあくアバイオ学専攻を増設、既存の生物産業学専攻の博士前期課程を、生物生産学専攻、食品科学専攻、産業経営学専攻の3専攻に改組



## 緑と生命を考究する実学の府

東京農業大学  
東京農業大学短期大学部  
おおさわ かんじゅ  
学長 大澤 貫寿

新入生諸君、入学おめでとう。大学を代表して心から歓迎します。

東京農業大学は、明治24（1891）年、徳川育英会の経営する育英農科として創設されました。創立者は、明治政府で文部、外務大臣などを歴任した子爵榎本武揚先生です。先生は、ヨーロッパの先進的科学技術がわが国の産業発展にとっていかに重要か、そのための教育がいかに大切かを痛感し、本学を設立しました。

本学の学風は、創立119年の長い歴史の上に培われたものですが、その基礎を築かれたのは、初代の塩水選法を考案し、我が国農学の先駆者横井時敬先生です。「稲のことは稲に聞け」「農業のことは農民に聞け」は、まず知識と経験によって裏打ちされた知を持って現場にある問題を抽出し、解決する姿勢、これが「実学主義」であり、「人物を畑に還す」という建学の精神と共に、本学の教育理念となっています。そして、食料、環境、健康、バイオマスエネルギーなど、農学関連分野で社会貢献できる人材を育て、農学の価値を高め、世界の農業、環境問題に貢献すべく、国際的に評価される実学を重んじた特色ある教育、研究を実践しています。

現代社会は、文化や価値観が激しく変化し続けています。また、IT化など先端的な技術革新により、人々が大きな恩恵を受け豊かさを享受してきました。しかし、その恩恵は全ての地球上に及んでいる訳ではありません。地球上のほんの一部を豊かにしていることを忘れてはなりません。そして、百年に一度の金融危機や人類の発展の代償となった深刻な環境破壊のほか、人権問題など地球規模の課題は山積されたままです。今、私たちがどのように立ち振る舞うべきかを真剣に考えなければならない時がきています。そのような社会の中において、個々の明確な自覚のもと、しっかりとした問題意識を持ち、その問題を解決してゆくための力を養うことは、特に大切なことです。

諸君は、東京農大で勉強に研究に、クラブやボランティア活動に新世紀の担い手にふさわしい国際人をめざし、充実したキャンパスライフを送ってください。本学の特色ある教育は、研究室での実験、演習を通して、教員と共に課題・研究に取り組み、コミュニケーションのはかれる環境です。また、最先端の研究を支え、環境にも配慮した施設・設備を機能的に配備しています。学術情報センターやキャリアセンターではIT関連システムの充実によって、3キャンパス同時同一情報サービスの提供を行っています。さらに、各種海外留学プログラム等を積極的に活用して、是非とも生涯の基礎となる力を培ってほしいと思います。

この『学生生活ハンドブック』は、①キャンパス内外で学生として知っておくべきこと、②学習を進めていくうえで知っておくべきこと、③『学則』をはじめ、学生生活の基本ルールなどが載せられています。すべて入学から卒業までの重要事項ですから、常時手元において十分活用してください。合わせて「東京農大学生ポータルシステム」を活用し、いきいきとチャレンジ精神旺盛な大学生活を送ることを希望します。

## 役 職

### 東京農業大学

学 長 大澤 貫寿  
副学長 高野 克己  
豊原 秀和

#### 厚木キャンパス

■農学部 学部長 岡島 秀治  
農 学 科 長 山口 正己  
畜 産 学 科 長 鈴木 敏郎  
バ イ オ セ ラ ピ ー 学 科 長 小川 博  
農 学 研 究 所 長 岡島 秀治  
厚 木 農 場 長 市村 匡史  
富 士 農 場 長 鈴木 敏郎  
植 物 園 長 市村 匡史  
食 品 加 工 技 術 セ ン タ ー 長 鈴木 敏郎  
バ イ オ セ ラ ピ ー セ ン タ ー 長 滝坂 信一  
電 子 顕 微 鏡 室 長 長島 孝行

#### 世田谷キャンパス

■応用生物科学部 学部長 鈴木 和春  
バ イ オ サ イ エ ン ス 学 科 長 矢嶋 俊介  
生 物 応 用 化 学 科 長 岡田 早苗  
醸 造 科 学 科 長 額田 恭郎  
栄 養 科 学 科 長 川野 因  
応 用 生 物 科 学 研 究 所 長 鈴木 和春  
食 品 加 工 技 術 セ ン タ ー 長 鈴木 和春  
ア イ ソ ト ー プ セ ン タ ー 長 吉川 博文  
菌 株 保 存 室 長 岡田 早苗  
高 次 生 命 機 能 解 析 セ ン タ ー 長 田所 忠弘

#### ■地域環境科学部

学部長 宮林 茂幸  
森 林 総 合 科 学 科 長 小林 純  
生 産 環 境 工 学 科 長 中村 好男  
造 園 科 学 科 長 濱野 周泰  
地 域 環 境 研 究 所 長 宮林 茂幸  
奥 多 摩 演 習 林 長 佐藤 明  
生 物 環 境 調 節 室 長 近藤 三雄  
電 子 顕 微 鏡 室 長 矢口 行雄

#### ■国際食料情報学部

学部長 高橋 久光  
国 際 農 業 開 発 学 科 長 板垣啓四郎  
食 料 環 境 経 済 学 科 長 大久保 武  
国 際 バ イ オ ビ ジ ネ ス 学 科 長 新部 昭夫  
国 際 食 料 情 報 研 究 所 長 高橋 久光  
宮 古 亜 熱 帯 農 場 長 志和地弘信

■大学院 農学研究科委員長 門間 敏幸  
農 学 専 攻 主 任 教 授 馬場 正  
畜 産 学 専 攻 主 任 教 授 祐森 誠司  
バ イ オ セ ラ ピ ー 学 専 攻 主 任 教 授 浅野 房世  
バ イ オ サ イ エ ン ス 専 攻 主 任 教 授 喜田 聡  
農 芸 化 学 専 攻 主 任 教 授 前田 良之  
醸 造 学 専 攻 主 任 教 授 小泉 幸道  
食 品 栄 養 学 専 攻 主 任 教 授 村 清司  
林 学 専 攻 主 任 教 授 豊川 勝生  
農 業 工 学 専 攻 主 任 教 授 豊田 裕道  
造 園 学 専 攻 主 任 教 授 鈴木 誠  
国 際 農 業 開 発 学 専 攻 主 任 教 授 堀内久太郎  
農 業 経 済 学 専 攻 主 任 教 授 藤島 廣二  
国 際 バ イ オ ビ ジ ネ ス 学 専 攻 主 任 教 授 藤本 彰三  
環 境 共 生 学 専 攻 主 任 教 授 駒村 正治

### 東京農業大学短期大学部

学 長 大澤 貫寿  
副学長 高野 克己  
豊原 秀和

#### ■短期大学部

学部長 館 博  
生 物 生 産 技 術 学 科 長 井上 知昭  
環 境 緑 地 学 科 長 鈴木 伸一  
醸 造 学 科 長 穂坂 賢  
栄 養 学 科 長 石田 裕  
生 活 科 学 研 究 所 長 館 博

学部と併置する付属施設

農学部：厚木農場・植物園・富士農場

応用生物科学部：食品加工技術センター

高次生命機能解析センター

### 共 通 諸 施 設

■世田谷学生サービスセンター長 夏秋 啓子  
■学術情報センター長（世田谷） 友田 清彦  
■学術情報センター長（厚木） 山部 能宜  
■コンピュータセンター長 安藤 達彦  
■総合研究所長 河野 友宏  
■国際協力センター所長 藤本 彰三  
■エクステンションセンター長 麻生 恵  
■教職・学術情報課程主任 村 清司

# 各学部、各学科及び課程の目的

各学部、各学科及び課程においては、建学の理念に基づき、人材養成と教育研究の面からそれぞれの目的を以下のとおり定めている。

## 農学部

本学部は、植物・動物の生命に関する基礎から応用までを科学し、それらを農学の発展に資することを目的としている。同時に動植物の育種、生産、加工など生産領域ならびに人と動植物との共生や生物介在療法など学際的領域を教育研究し、豊かな心と実学的知力を養い国内外において地域リーダーとして活躍できる意欲と能力を持った人材を養成する。

### 農学科

本学科は、安全で信頼性の高い、安心、安定した農業生産のため、農作物の特質、栽培技術等の学理を教育・研究し、実学的な教育と積極的な課外活動を通して、自己の適性を発見し、持続可能な次世代型農業を開拓、国内はもとより世界の農業を中心とした広範囲な分野で羽ばたくことのできる人材を養成する。

### 畜産学科

本学科は、動物の生命現象の本質を追究する生命科学と生産物の生産から流通までの食料生産を追求する生産科学の2領域を包含している。課程を通じて生命の尊厳や倫理を学び、豊かな心を持ち、医・薬・理学領域まで広がりを見せる生命科学関連及び良質で安全な食料を生産する生産科学領域で貢献し得る人材を養成する。

### バイオセラピー学科

本学科は、人と動植物とのかかわり、すなわち動植物との共生、動植物の活用による生活の質の向上、動植物を介しての癒し、さらに動植物を介在させた療法にまで及ぶ学際的領域に関する教育と研究並びに実践を行い、国内外においてこれらの領域で活躍できる意欲と能力を持った人材を養成する。

## 応用生物科学部

本学部は、動植物・微生物等が営む生命現象について理解と解析能力を高め、人と環境との共生の上に成り立つ生活を真に考究し、実践出来る人材育成を教育理念としている。本理念の達成に向け、生物と化学を基礎学問に据え、講義と実験・実習さらには卒業論文実験を通じて、学力の向上と国際的研究を目指す。

### バイオサイエンス学科

本学科は、基礎から最先端の生命科学の知識と技術を習得し、生命現象を本質的に理解し、生命科学を利用して社会貢献できる人材及び研究や開発等生命科学領域で幅広く活躍するための礎となる深い洞察力と問題解決能力を身につけた個性豊かな人材を養成する。

### 生物応用化学科

本学科は、化学と生物学の素養と知識を基礎に生命現象から環境問題までを多角的に理解・解析できる人材を養成する。その目的を達成するため、食料・健康・環境・資源エネルギーにかかわる諸問題を対象として、基礎から応用にわたる実学的教育・研究プログラムに基づいた教育をする。

### 醸造科学科

本学科は、わが国唯一の醸造・発酵技術関連の高等教育研究機関である。微生物利用産業における、伝統技術から最新のバイオテクノロジーに至る幅広い分野の教育研究を行なっている。当該分野の基礎知識及び総合的技能を有する、醸造・食品・微生物利用産業の発展に寄与する人材を養成する。

### 栄養科学科

本学科は、2専攻からなる。食品栄養学専攻は、食品の品質、安全性、生理機能等、食品に関する高度な専門知識・技術を身につけた「食の研究者や技術者」を養成する。また管理栄養士専攻は、食による健康の保持増進並びに傷病者療養のための栄養管理や栄養指導のできる「管理栄養士」を養成する。

### 地域環境科学部

本学部は、生物に対する深い理解を基調とし、自然と人間の調和ある地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための科学技術を確立することを目指すものである。さらに、ミクロな地域環境問題の解決はもとより、マクロな広域環境問題、さらにはグローバルな地球環境問題の解決に貢献する人材を養成する。

### 森林総合科学科

本学科は、人間と森林の共生に貢献できる人材の育成が、教育・研究目標である。森林そのものと環境循環について科学的に理解することからはじまり、森林のもつ資源生産的機能と環境循環機能を総合的に考究するなかで、これからの循環型社会の創造に貢献できる専門知識を養う。

### 生産環境工学科

本学科は、農業生産の場における土・水・施設・機械に関する技術を応用し、地域から地球規模まで考慮した環境保全に資する新たな農業生産技術とエコ・テクノロジーの開発を行うとともに、生産性向上のみでなく、環境・資源・エネルギーに配慮した計画・設計・施工・管理を行える倫理観を持った技術者を養成する。

### 造園科学科

本学科は、庭園文化を踏まえ、人間と自然の調和共生社会の実現をめざし、都市から田園、自然地域にわたる国土の環境と景観を保全・活用し創造するための、調査・計画・設計・施工・管理・運営及び材料に関する理論と応用を教授し、豊かな感性とデザイン力、確かな倫理観を持つ造園家、造園技術者を養成する。

## **国際食料情報学部**

本学部は「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと総合的・実践的に挑戦する」をモットーに、農業・農村開発と国際協力の推進、持続可能な食料・農業システムと循環型社会の構築および資源・環境保全と産業発展の共生を図る新しいバイオビジネスの展開等の分野で活躍できる人材を養成する。

### **国際農業開発学科**

本学科は、自然科学と社会科学の両領域からなる科目を配し、さらに、国内外の農業実習・研修を積極的に取り入れ、「専門性を活かした総合的アプローチ」をモットーに、農業・農村開発協力を通じて国際貢献のできる人材を養成する。

### **食料環境経済学科**

本学科は、社会科学、とりわけ経済学的手法を用いて、「農業」「食料」及び「環境」を取り巻く課題を地域的・国民的視点、さらには国際的視点から究明し、もって「新たなフードシステムの構築」及び自然と人間の共生を軸とした「持続的な循環型社会の構築」に資する人材を養成する。

### **国際バイオビジネス学科**

本学科は、人類の生存に最も重要な食料・環境にかかわるビジネスの教育・研究を行う。食料の生産、加工、流通、支援サービス、さらには生態系を踏まえた地域環境・資源の分野において持続的な経営発展を推進するバイオビジネスの専門的知識と技術を身につけた国際的人材を養成する。

## 教職・学術情報課程

本課程は、知識・品位・技能を兼ね備えた熱意あふれる教員並びに博物館・図書館等における各種情報の調査・収集・整理・保管・検索・提供等の実務に取り組む実践的かつ専門的知識を身につけた学芸員及び司書を養成する。

## 生物生産技術学科

本学科は、動物と植物の生産を有機的に結合し、地球環境の保全にも配慮した生物生産体系の確立を目指して、講義と実験・実習・演習を連動させた特色あるプログラムによる実学教育を行うことにより、実践的な専門知識と教養を兼ね備えた専門職社会人として社会に貢献できる人材を養成する。

## 環境緑地学科

本学科は、人と生物とが共存できる緑豊かな生活環境の創造をめざして、人格の陶冶、基礎理論に裏打ちされた思考から現場での問題を解決できる応用能力を身に付け、環境緑化及び造園業の自営者や後継者、緑化・花卉関連産業の第一線で活躍し、その発展に寄与しうる行動力のある人材を養成する。

## 醸造学科

本学科は、実学主義に基づいた実験・実習・演習科目を重視したカリキュラム構成であり、基礎学力の向上とともに最新科学技術と我が国伝統の醸造技術とを総合的に学ぶ点を特徴としている。これらを基に、醸造食品業界をはじめとする社会の様々なニーズに即応可能な実践力を有する人材を養成する。

## 栄養学科

本学科は、建学の精神である実学と自治を根幹とし、国民一人一人が心身ともに健康で豊かな生涯を送れるように、食生活の改善や運動を通して、心と体の健康づくりに貢献する栄養士を養成する。また、食料の生産から加工・流通・消費及び栄養までの幅広い知識を習得させることにより、食の専門家を育成する。

## 学術情報課程（短期大学部）

本課程は、図書館等における各種情報に関する調査・収集・整理・保管・検索・提供等の実務に取り組む実践的かつ専門的知識を身につけた司書を養成する。

平成22年度（2010年度）年間授業計画  
（農学部）

月	日（曜日）	行事予定
4	2（金） 5（月） 5（月）～7（水） 6（火） 6（火） 9（金） 9（金）～10（土） 12（月）	入学式（世田谷） 新入生各学科ガイダンス 在学生健康診断 新入生健康診断 在学生ガイダンス 新入生学外オリエンテーション（農学科・畜産学科） 新入生学外オリエンテーション（バイオセラピー学科） 前学期授業開始
5	18（火）	大学の記念日
6	5（土） 30（水）	教育懇談会 卒業論文題目届提出
7	17（土）～18（日） 23（金）・28（水） 29（木）	教育後援会地方懇談会 ※補講日 前学期定期試験
8	4（水） 5（木） 7（土）～8（日）	キャンパス見学会 夏季休業 夏季集中授業
9	10（金） 13（月）～17（金） 21（火） 25（土）	前学期授業及び試験の総括※追再試験を含む 後学期授業開始 編入学試験
10	28（木） 28（木） 29（金） 30（土） 31（日）	収穫祭準備のため休講 収穫祭奉献式 収穫祭前夜祭 収穫祭 収穫祭
11	1（月） 2（火） 19（金） 20（土）～21（日）	体育祭 収穫祭（後片付け） 推薦入試準備のため休講 推薦入試
12	5（日） 28（火）	優先入試 冬季休業
1	6（木） 7（金） 14（金） 15（土）～16（日） 19（水）・25（火）・26（水） 28（金） 31（月）	後学期授業再開 センター入試準備のため休講 センター入試 ※補講日 後学期定期試験 卒業論文提出締切日
2	3（火） 7（月）～10（木） 21（月）～25（金）	一般入試 後学期授業及び試験の総括※追再試験を含む
3	6（日） 17（木） 21（月）	学校法人の創立記念日 卒業確定者および進級確定者の発表 卒業式

注：上記のスケジュールはいずれも予定であり、変更することがあります。

変更が生じた場合は、随時、学生ポータル等にて周知しますので確認してください。

※ 補講日について

休講等により補講を行う必要が生じた科目について実施します。

該当科目は、授業時間中における担当教員からの指示又は掲示板にて周知します。

**平成22年度（2010年度）年間授業計画**  
 （応用生物科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部）

月	日（曜日）	行 事 予 定
4	2（金） 2（金）～6（火） 5（月）～6（火） 7（水）～9（金） 7（水）～9（金） 12（月）	入学式 新入生各学科ガイダンス 新入生健康診断 在学生健康診断 新入生学外オリエンテーション・在学生ガイダンス 前学期授業開始
5	18（火）	大学の記念日
6	5（土） 30（水）	教育懇談会 卒業論文題目届提出【卒業年次生】
7	17（土）～18（日） 23（金）・28（水） 29（木）	教育後援会地方懇談会 補講日
8	4（水） 5（木） 7（土）・8（日）	} 前学期定期試験  } 夏季休業 夏季集中授業 キャンパス見学会
9	10（金） 13（月）～17（金） 21（火） 25（土）	
10	28（木） 29（金）～31（日）	
11	1（月） 2（火） 19（金） 20（土）～21（日）	収穫祭準備のため休講 収穫祭【休講】 体育祭【休講】 収穫祭（後片付け）【休講】 推薦入試のため休講 推薦入試
12	5（日） 28（火）	優先入試
1	6（木） 7（金） 14（金） 15（土）～16（日） 19（水）・25（火）・26（水） 28（金） 29（土）	} 冬季休業  } 後学期授業再開 センター入試準備のため休講 センター入試 後学期補講日  } 後学期定期試験 卒業論文提出締切日【卒業年次生】
2	3（木） 7（月）～10（木） 21（月）～25（金）	
3	6（日） 17（木） 20（日） 21（月）	一般入試 後学期授業および試験の総括（追再試験含む） 学校法人の創立記念日 卒業確定者および進級確定者の発表 卒業式（世田谷キャンパス） 卒業式（厚木キャンパス）

注：上記のスケジュールはいずれも予定であり、変更することがあります。  
 変更が生じた場合は、随時、学生ポータル等にて周知しますので確認してください。

※ 補講日について  
 休講等により補講を行う必要が生じた科目について実施します。  
 該当科目は、授業時間中における担当教員からの指示又は1号館吹き抜けの掲示板にて周知します。

平成22年度（2010年度）年間授業計画  
（短期大学部）

月	日（曜日）	行事予定
4	2（金） 2（金）～6（火） 5（月）～6（火） 7（水）～9（金） 7（水）～9（金） 12（月）	入学式 新入生各学科ガイダンス 新入生健康診断 在学生健康診断 新入生学外オリエンテーション・在学生ガイダンス 前学期授業開始
5	18（火）	大学の記念日
6	5（土） 30（水）	教育懇談会 卒業論文題目届提出【卒業年次生】
7	17（土）～18（日） 23（金）・28（水） 29（木）	教育後援会地方懇談会 補講日 前学期定期試験
8	4（水） 5（木） 7（土）・8（日）	夏季休業 夏季集中授業 キャンパス見学会
9	10（金） 13（月）～17（金） 21（火） 25（土）	前学期授業および試験の総括（追再試験含む） 後学期授業開始 編入学試験
10	28（木） 29（金）～31（日）	収穫祭準備のため休講 収穫祭【休講】
11	1（月） 2（火） 19（金） 20（土）～21（日）	体育祭【休講】 収穫祭（後片付け）【休講】 推薦入試のため休講 推薦入試
12	5（日） 28（火）	優先入試 冬季休業
1	6（木） 7（金） 14（金） 15（土）～16（日） 19（水）・25（火）・26（水） 28（金） 29（土）	後学期授業再開 センター入試準備のため休講 センター入試 後学期補講日 後学期定期試験 卒業論文提出締切日【卒業年次生】
2	3（木） 7（月）～10（木） 21（月）～25（金）	一般入試 後学期授業および試験の総括（追再試験含む）
3	4（金） 6（日） 17（木） 20（日）	一般入試Ⅱ期 学校法人の創立記念日 卒業確定者および進級確定者の発表 卒業式

注：上記のスケジュールはいずれも予定であり、変更することがあります。  
変更が生じた場合は、随時、学生ポータル等にて周知しますので確認してください。

※ 補講日について

休講等により補講を行う必要が生じた科目について実施します。

該当科目は、授業時間中における担当教員からの指示又は1号館吹き抜けの掲示板にて周知します。